

エール

小田原市立病院

Odawara Municipal Hospital

広報誌

2014 Winter

No.1

信頼され愛される
病院を目指して

2 3 創刊に寄せて ごあいさつ

病院長 白須和裕 看護部長 石綿真由美

4 5 救命救急センター スタッフ紹介

6 災害拠点病院 ビッグレスキューかながわ

7 『かかりつけ医』と地域医療支援病院

8 生活習慣病(糖尿病)の 予防対策 Healthy cooking

広報紙「エール」の 創刊に寄せて

病院長 白須和裕

小田原市をはじめ県西地域の住民の皆さんには、日ごろから小田原市立病院の運営に対しましてご理解とご協力をいただいておりますことにお礼を申し上げます。

市立病院の職員一同は、病院の理念であります「地域基幹病院としての機能を発揮し、地域住民から信頼され愛される病院を目指して」、日夜頑張っておりますが、市立病院をご利用いただいている患者さんやご家族の皆さんからは、温かいご支援と共に時には厳しいご叱声も寄せられています。いずれも市立病院に期待を寄せていただければこそのご声援と受けとめ、改善すべきは改善してより良い病院として、これからも皆さんの健康を守るための応援を続けてまいります。

また、患者さんがいつでも必要な医療を受けられるためには、患者さんを中心に、かかりつけ医となっている診療所と、入院治療が必要な場合に病状に応じて受け皿となる病院が互いに情報交換しながら連携していくことが不可欠です。

「エールを交換する」。この度、皆さんと市立病院の架け橋として創刊しました広報紙に「エール」と名付けたのにはこのような思いを込めています。「エール」を通して地域基幹病院としての機能を発揮するため、市立病院が取り組んでいることを皆さんにわかりやすくお伝えしてまいりたいと思います。充実した地域医療の実現のため、皆さんからエールを送っていただければ幸いです。



看護の無限の豊かさを求めて

～元気・勇気・笑顔を大切に～

看護部長 石綿真由美



県西地域の住民の皆さん、こんにちは。看護部長の石綿です。

近年の急速な少子高齢化社会の進展など医療を取り巻く環境の大きな変化に伴い、看護を取り巻く環境も大きく変わってきています。団塊の世代の方がすべて75歳になる2025年には、慢性疾患や複数の疾患を抱えながら地域で暮らす人が急速に増加すると言われています。

国では、医療体制のあり方を病院完結型から地域完結型へと医療機能の分化を明確にし、「治す医療」から「治し、支える医療」へと向かっています。病院から在宅への切れ目ない医療を提供するには、地域連携が重要であり、地域医療支援病院として近隣の医療施設、医院・クリニック及び介護施設等との連携が喫緊の課題です。

また、高度医療、救急医療等の更なる充実を図り、急性期病院としての質の高い効率の良い医療・看護が求められています。

看護部としては、多職種と連携を図り、チーム医療を展開し、「心を大切にし、確実に丁寧な看護を実践する」ことを理念として「患者さんをお迎えする」姿勢を心掛けています。当院の看護師教育で大切にしていることは、専門職業人として専門的知識・技術はもとより、病に苦しむ人にやさしく接する「こころ」と誠実な対応です。言い換えれば、それは患者さんの立場になり、価値観を理解する感受性だと考えています。

看護には、人を包み込む無限のあたたかさや豊かさがあります。臨床現場の看護師には自立したプロフェッショナルとして強く豊かになって「元気・勇気・笑顔」で患者さんに安全・安心な医療を提供できることを目標にしています。





運び込まれる救急患者

平成21年4月から県西二次保健医療圏の救急医療システムを担う救命救急センターとして稼動しました。救急車で搬送される緊急度・重症度の高い患者さんや、多発外傷のように複数診療科にまたがる重症な患者さんの初期治療と入院後の集中治療管理を救急科専門医が中心となって行っています。

救急隊員への教育と連携

病院前救護に携わる救急隊員に対し、現場活動に関する指導、教育、事後検証などでも中心的な役割を担っています。また、年間20人程度の救急隊員を受け入れて病院実習も行っています。これらにより、病院前救護医療の質の向上を図り、市民の皆さんに対する安全・安心を提供しています。



救急隊員の病院実習

当院は、平時も災害時も
安全・安心な医療を提供する
病院・救命救急センターを目指していきます。

近隣病院と連携

近隣の広域2次病院や東海大学医学部付属病院高度救命救急センターなどと連携を図り、患者さんの受入れ、搬送などを円滑に行うことで、質の高い迅速な救急医療を担保しています。

救命救急センターでは、24時間体制で年間約5,000台の救急車を受け入れています。救急車で搬送される患者さんの4分の1は交通事故や労働災害などの一般外傷によるものです。

このほか、心肺停止、心筋梗塞・心不全といった重篤な症状の患者さんも多く搬送されます。冬場は脳出血などの脳血管障害の患者さんが増加する傾向があります。

また、年間約13,000人の患者さんが救急外来を利用されますが、今後も、救急科と各診療科の医師が連携を図りながら県西地域における救急医療の中心的な役割を担っていきます。



救命救急センター



救命救急センター看護師

スタッフ紹介



(前から) 渡辺医師 守田救命救急センター長
西野医師(右) 櫻井医長(左)

救命救急センター長 守田 誠司

小田原市立病院は、県西二次保健医療圏内における唯一の救命救急センター、また災害拠点病院です。非常に重責ですが、スタッフ一同で協力して円滑で高度な救急医療を地域住民の皆さんに提供できるよう努力してまいります。

医長 櫻井 馨士

私は、過去にも同職で小田原市立病院に赴任しており、非常に温かく、協力的な病院に戻ってこられたことを嬉しく思っています。地域住民の皆さんのための救命救急センターを目指して頑張っていきます。

医師 渡辺 泰江

この地域の特徴として、高齢化率が高く、旅行者が多い、また、高速道路や山も川も海もあるため、さまざまな疾病や外傷の患者が搬送されてきます。どのような状況でも対応できる安定的な救命救急センターを目指して努力していきたいと思っています。

医師 西野 智哉

私は、滋賀県出身で海のない県で育ちました。小田原市は海もあり、自然に恵まれており、非常に快適な地域であると感じました。地域の救急医療のために努力していきたいと思います。



DMAT 隊員 (後列左から) 岡田医師 守田医師 佐藤放射線技師
(前列左から) 村山看護師 長瀬看護師

当院は、災害拠点病院の指定を受け、災害時の医療救護活動において中心的役割を担い、地域の医療機関を支援する機能を有する病院として位置づけられています。

厚生労働省の基準では、地域の災害拠点病院については、原則として二次保健医療圏ごとに1か所ですが、神奈川県は人口や地域性などを考慮し、複数の病院が指定されています。

県西二次保健医療圏では、当院と神奈川県立足柄上病院が指定されています。具体的な活動内容としては、①被災地からの重症傷病者の受入機能、②救命医療を行うための高度診療機能、③災害派遣医療チーム(DMAT) 隊員の管理・運用、④傷病者の広域後方搬送への対応機能、⑤医療救護班の派遣機能、⑥地域医療機関への応急用医療資機材の貸出機能などがあります。

ビッグレスキュー かながわ

(神奈川県・小田原市合同総合防災訓練)の実施

「ビッグレスキューかながわ」は、神奈川県が中心となって、県内市町村、消防本部、県警察本部、警察署、自衛隊、海上保安庁、在日米軍に加え、災害拠点病院を中心とした医療機関などが参加する大規模災害を想定した総合防災訓練です。

「第3回ビッグレスキューかながわ」は、平成26年8月31日(日)に神奈川県と小田原市が中心となって開催されました。多数の関係機関が参加し、より実践的な訓練が行われました。

当院も、災害拠点病院として災害時の患者受入訓練(トリアージ訓練)、緊急入院調整訓練、災害派遣医療チーム(DMAT) 受入訓練、患者広域搬送訓練などに多数の職員が参加し、病院の一部を使用して実践さながらの訓練を行いました。さまざまな改善点が明確となり、この経験をもとに災害拠点病院としての機能強化を進めていきます。



訓練の様子



『かかりつけ医』と 地域医療支援病院



近年、急速な少子高齢化の進展などから、医療を取り巻く環境は大きく変化しています。国では、団塊の世代と言われる方々が75歳になる2025年に向けて、持続可能な医療提供体制を築くため、患者の重症度や緊急性に応じて、医療機関がそれぞれの役割や機能を分担しながら診療にあたる仕組みづくりを進めています。

地域と協力して医療の向上

市立病院は、平成21年10月に地域医療支援病院の承認を受け、地域の医院やクリニックなどと、医療機能の役割分担と連携を積極的に推進しています。

当院では、地域の医療機関から紹介された専門的な医療や入院医療を必要とする患者さんの診療を行うとともに、症状が安定した患者さんは紹介元の「かかりつけ医」である医療機関に、その後のフォローをお願いし、安心して医療を受けられるよう努めています。

市立病院では、次のとおり初診または過去3か月以内に受診のない人が受診するときは紹介状が必要です。

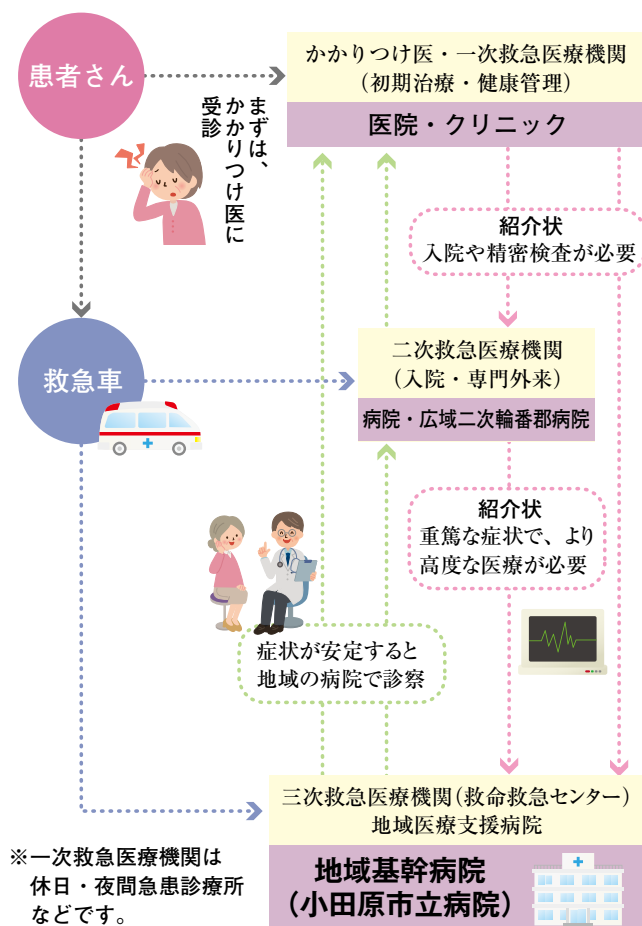
平成26年12月現在

初診の方は紹介状が必要な診療科	備考
呼吸器内科	過去3か月以内に受診がない場合、紹介状が必要 (初診の方は、かかりつけ医からの事前予約が必要)
消化器内科	過去3か月以内に受診がない場合、紹介状が必要
循環器内科	過去3か月以内に受診がない場合、紹介状が必要
耳鼻いんこう科	過去3か月以内に受診がない場合、紹介状が必要
糖尿病内分泌内科	紹介状が必要 初診の方の診察は火曜日と木曜日
腎臓内科	紹介状が必要
総合診療科	紹介状が必要
整形外科	紹介状が必要
リハビリテーション科	紹介状が必要
泌尿器科	他の医療機関の泌尿器科にかかりつけの場合は紹介状が必要
産婦人科	婦人科は受診予約がある方を除き、紹介状が必要（産科については紹介状がなくても受診できます）

かかりつけ医を持ちましょう

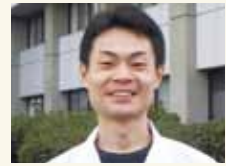
かかりつけ医とは、ご自身やご家族の日常的な診療や健康管理をしてくれる身近なお医者さんです。短い待ち時間での診察や、入院や検査が必要な場合には適切な病院・診療科を紹介してもらえるメリットがあります。

市立病院では、かかりつけ医の先生から紹介があった場合、当院の専門医師と情報を共有し、患者さんが安心して診療を受けられる体制を整えています。





生活習慣病(糖尿病)の 予防対策



糖尿病内分泌内科
医長 佐藤光一郎

糖尿病とは、血糖値と呼ばれる血液中のブドウ糖の濃度が高くなる病気です。糖尿病を発症しても初期には症状がありません。糖尿病は進行しても尿の回数が増えたり、のどが渇いたりなど症状に乏しい病気です。そのため、病気であることに気が付かない人や、血糖値が高いとわかっていても病院を受診しない人もいます。しかし、血糖値が高い状態を放置すると、神経、目、腎臓などの臓器に障害が起きたり、脳や心臓の血管が詰まって脳梗塞や心筋梗塞が起きたりします。

膵臓は、インスリンという血糖値を下げるホルモンを分泌し、血糖値が高くならないように調節しています。しかしながら、インスリンの効きが悪くなったり、膵臓がインスリンを出せなくなったりする

と血糖値が上昇し、糖尿病を発症します。

インスリンの効きを悪くする原因には肥満や運動不足があります。体重が増え過ぎるとインスリンが効きにくくなりますが、最初は、膵臓が頑張ってより多くのインスリンを分泌することで血糖値を正常に保とうとします。しかし、次第に膵臓は疲れていきインスリンの分泌が減り糖尿病を発症します。

糖尿病にならないためには、血糖値が正常の頃から肥満にならないように注意し、膵臓に負担をかけることが大切です。

標準体重は **身長(m) × 身長(m) × 22** で計算できます。体重計に乗る習慣をつけて、標準体重を大幅に超えないように適量の食事と適度な運動を心掛けましょう。

Healthy cooking
Vol.1

臭たくさんのドレッシングで食べるブロッコリー
ブロッコリーのツナドレサラダ

【一人分の栄養量】 エネルギー 120kcal

たんぱく質11g 塩分0.9g 食物繊維4.9g

★材料 (4人分) ブロッコリー 小2株

★ツナドレッシング

ツナ缶詰 大1缶 (140g)

トマト 1/2個

玉ねぎ 1/2個

しょうゆ 大さじ1

酢 大さじ2

こしょう 少々



作り方 (所要時間 15分)

①ブロッコリーは小房に分ける。茎は皮むきし拍子木切りにする。塩少々を加えた熱湯でゆでてざるに上げ、そのまま冷ます。

②ツナは缶汁をきって粗くほぐす。トマトは5ミリ角に切る。玉ねぎはみじん切りにする。ボウルにドレッシングの材料を合わせ、よく混ぜ、①にかける。



ブロッコリーの花蕾の部分には、花を咲かせるための栄養分が凝縮されています。ビタミンやミネラル、食物繊維も多く含む健康優等生。強い抗酸化力で免疫機能を高めるほか、感染症や老化、がん、動脈硬化を防ぐ作用も持ち合わせているといわれています。